JCHO-Column

急性胆のう炎について

福井勝山総合病院
外科診療部長　永　野　秀　樹

胆のうで急激に炎症を生じた疾患が急性胆のう炎です。

多くは胆のう管や胆のう頸部の閉塞で生じ、90％以上は胆のう結石が原因です。他に手術・重症外傷・熱傷・点滴だけでの長期栄養管理、血行障害、細菌・寄生虫感染、膠原病、アレルギーなどで生じます。1・0～1・5％に胆のう癌の合併が報告されています。

健診などで無症状のうちに胆のう結石症と診断された場合、最終的に手術が必要となるリスクは20～40％とされ、年率1～数％と見積もられています。一旦急性胆のう炎を発症してしまうと緊急に入院しての治療を余儀なくされるため、無症状のうちから手術をご希望される方は病院でご相談ください。

症状は右上腹部やみぞおちの痛み、発熱、吐き気などが多く、右上腹部を押さえると痛い、痛くて腹筋が緊張するのも典型的です。病院では採血で白血球数や炎症蛋白の上昇、造影CTで胆のうの拡張や結石、胆のう壁の炎症性肥厚所見が確認され急性胆のう炎と診断されます。胆石が胆管内にもないか確認します。余裕があればMRI検査も行います。

治療は全身状態が許せば胆のう摘出術です。一時的に体壁から肝臓を通して胆のうに管を留置し感染胆汁を体外へ出す経皮経肝胆のうドレナージを行うこともありますが、それでも軽快後に胆のうを摘出するのが基本です。

手術は腹腔鏡下胆のう摘出術を行います。腹腔鏡手術が困難な手術歴、病状の重篤度、基礎疾患などから開腹手術が選択されることもあります。全身麻酔も困難な場合には経皮経肝胆のうドレナージの他、局所麻酔下での胆のう外瘻術も考慮されます。胆石が胆管内にもみられれば胆管炎も併発していると考えられ、追加の治療も必要となります。急性胆のう炎は当初は胆のうのうっ血や浮腫程度ですが、次第に出血性胆のう炎、壊死性胆のう炎、穿孔、胆のう周囲膿瘍形成と重症化していき、特に高齢者や糖尿病などの基礎疾患をお持ちの方は重篤な胆のう炎に移行するリスクが高いとされています。

胆のう炎かなと思ったら早めに病院を受診しましょう。

教育会館
勝山公民館　展示コーナー

◆成器西小学校児童　西の子左義長まつり作品展

児童が製作した作り物や絵行灯、吹き流しなどをお楽しみください。

展示期間▶2月5日(月)～2月25日(日)

※作り物は17日(土)まで展示、18日(日)は休館日

◆松田数実さんの木工芸作品展

天然の木の素材を活かし作られた器や一輪挿しを展示します。磨き出された木目と曲線の美しさをご覧ください。

展示期間▶2月19日(月)～3月4日(日)

問　勝山公民館（教育会館1階）☎88－0800

行ってみよう
湯ったり勝山

1月は湯ったり勝山3周年祭を開催しました。平泉寺保育園の子どもたちの発表やハーモニカ演奏会などがあり、会場は賑わいました。

また、バドミントンのシャトルで“はぴりゅう”を作ったり、押し花で世界に1つの作品を作り、楽しい時間を過ごすことができました。

申・問　地域包括支援センター「やすらぎ」（すこやか内）　☎87－0900

人口の動き

	12月末現在	自然動態			社会動態			1月末現在	月間増減
		出生	死亡	計	転入	転出	計		
男	11,322人	5	－19	－14	10	－13	－3	11,305人	－17人
女	12,434人	7	－22	－15	16	－21	－5	12,414人	－20人
合　計	23,756人	12	－41	－29	26	－34	－8	23,719人	－37人
世帯数	8,028世帯							8,018世帯	－10世帯

交通事故発生状況

※高齢者＝65歳以上

件数内訳	平成30年1月末	前年比
総件数	65件	＋10件
人身事故（うち高齢者）	2件（0）	＋1件（±0）
死　者（うち高齢者）	0人（0）	±0人（±0）
傷　者	2人	±0人
物損事故	63件	＋9件

2月の納税

固定資産税▶第4期

納期限▶2月28日(水)　口座振替▶2月26日(月)

U・Iターンコラム

U うつくしく
I いきる
Enjoy Life in Katsuyama

中村 麦穂さん（27歳）
＝元町3＝

第8回目は、富山県からIターンし、看護の仕事に従事されている中村さんにお話を伺いました。

▶Iターンしたきっかけは

子どもの「かつやま子どもの村小学校」への入学をきっかけに勝山へ移住しました。自然の中で、子どもらしくのびのびと育ってほしい。自分で考え行動できるようになってほしいという想いと、学校の所在地が同じ北陸ということもあり、勝山に決めました。

▶移住前に不安だったことは

就職先が不安でしたが、看護職に就ける資格を取得したことや様々な方の支援があり、クリニカ・デ・ふかや（元町1）に就職することができました。市には医療や看護関連の仕事に就く移住者に対する支援制度もあり、大変ありがたく思っています。

▶移住して良かったことは

地域の方々の距離が近いことです。お互いの顔が分かるということは、とても安心感があります。

また、放課後子どもが安心して遊べる放課後児童クラブが無料で利用できることや子どもが熱をだした時に看てもらえるひかり病児保育園（クリニカ・デ・ふかや内）があるなど、働きながら子育てをする環境には大変恵まれていると思います。

また、雪が降ったあと、車道だけでなく歩道まで除雪されていたのには驚きました。とても歩きやすく大変助かっています。

ふるさと企業魅力発見キャリアフェア
～市町移住・定住相談コーナー～

勝山市が出展しますので、お知り合いにご紹介ください。

と　き▶3月4日(日)
午前11時～午後5時
ところ▶サンドーム福井

お問い合わせは
ふるさと創生・移住課（市役所2階）へ
☎88－8130

ふるさとを訪ねて
～地域文化を掘り起こそう～ ⑪

市史編纂室　山田　雄造

今回は「小舟渡橋」を紹介します。

大永4年（1524）の史料に「渡守　大わたり　こふなと　なるか」と記され、小舟渡の渡しは中世以来九頭龍川の対岸を結ぶ重要な渡し場であった。貞享2年（1685）の「越前国絵図」に森河（川）村と中嶋村の間に「小舟渡川幅百四十三間岸四間」と記し、川には舟が描かれている。絵図製作の産物である『越前地理指南』の森川村の項にもほぼ同じ記述があり「渡守村アリ」とある。

宝暦10年（1760）の森川村明細帳に「当村地内小船渡渡守共家数弐拾三軒　人数　八拾壱人」とあり、江戸時代には森川村の枝村として渡守村が成立したと考えられる。また「九頭龍川返（辺）字小舟渡　一、舟渡壱ケ所」とあり、「白山と勝山平泉寺への往還の渡舟で、渡守への給米4石2斗7升6合は森川村の御年貢米から割いて与える。舟が破損した場合は近郷村々へ必要なお金を割当て修復する」とも記されている。

近代に入り、小舟での往来は大変な不便をきたした。その間の経緯を小舟渡駅傍らの「架橋記念碑（大正12年（1923）建設）」は次のように記す。「明治17年（1884）地方有志森川村笠松氏と、清水村赤井氏が相談し船橋を私設した。同37年県営となったが洪水の際は切断され、交通が途絶し地方の発展を阻害している。県会議員であった石川石松等が努力し県会に働きかけ、紆余曲折を経て大正12年に小舟渡橋がようやく完成した」。

小舟渡橋は、曲弦・直弦トラスと鉄筋コンクリート桁橋と3連で繋がれている。「日本の近代土木遺産2800選」にはCランクで記載されている。

明治末の船橋

現在の小舟渡橋